

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年 4月 13日

事業所名 ふくらKids・夢(ふくらトータルケア那珂)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	②	職員の配置数は適切である	○		急遽の職員の休みが出た場合は、会社内の他事業所から支援をもらい対応している。	職員の健康管理
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化になっているか。また、障害の特性に応じ、設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		生活空間を広くとる為、ウッドデッキ等も利用しながら子どもたちが楽しく過ごせる空間を提供できている。	
適切な支援の提供	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画している	○			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し業務改善につなげている	○			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	○			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。		○		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	○		毎月、職員勉強会を実施している。また、外部研修にも参加できている。	毎月の勉強会は、日々の仕事に役立つ内容を今後も取り入れる。
保護者への説明等	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。	○		外部講師により、子どもと家族のアセスメントを学んでいる。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している。		○		
	⑫	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている。	○			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている。	○			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動内容会議を行い質の向上が図れている。	療育リーダーを中心に楽しい、快適な活動内容の継続
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	①6	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成している。	○			
	①7	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	○		ラインワークス(以下ワークス)を活発に活用し、役割分担等確認するように努めている。	
	①8	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援内の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。		○		終了時の振り返りが十分にできるよう、ワークスでの振り返りを行う。
	①9	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげていく。	○			
	②0	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している。	○			
関係機関や保護者との連携	②1	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	○		必ず、参加している。	
	②2	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている。	○			
	②3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている。	○		担当者を把握しながら連携している。また、出来るだけ情報交換はこまめに実施している。	
	②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている。	○		担当者を把握しながら連携している。また、会議などで主治医や担当者とは顔の見える関係に努めている。	
	②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容などの情報共有と相互理解を図っている。	○			保育所、幼稚園などを併用している利用者さんの情報共有が来年度の課題
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	○		特別支援学校の先生方とは、移行支援会議を毎年実施できている。	
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	○			
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園との交流や障害のない子どもと活動する機会がある。		○		保育所等とも来年度は交流できる機会を作ることが課題。
	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している。		○		
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	○			
	③1	保護者の対応能力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている。		○		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	○			
	33	児童発達ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意をえている。	○			
	34	定期的に、保護者から子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	○		活動参観日を今年度実施したが、茶話会等も実施していきたい	定期的な保護者との交流会（活動参観日、茶話会等）の開催
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している。	○		保護者からの申し入れ、相談には迅速に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	○		会報やホームページ、会員限定のページ、SNS等で活動概要などを発信している。	
	38	個人情報の取り扱いに十分注意している。	○			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。		○		ワークマルシェ時の地域の皆様への広報活動強化
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している。	○		
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	○			
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している。	○			
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	○		左記の子どもが利用になる場合は職員での情報共有と、食事やおやつ時のチェックを欠かさず実施。	
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	○		事例集だけでなく、話し合いをもちワークスを用いて情報共有につとめ、対策も共有している。	
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	○		職員勉強会で毎年実施している。	
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している。	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
--	--------	----	-----	---------	------------------------------

+